

事例紹介

山口県山口市立 徳佐小学校

iPad×eライブラリで学力向上！

～学力調査対策に、応用力をつける！～



徳佐小学校では、学力向上にしっかりと狙いを定めて、11台のiPadを学習指導に活用しています。iPadとドリルを組み合わせ、基礎学力の定着や理解度把握に活かす取り組みをぜひご覧ください。

授業 iPadをさっと取り出し、まとめのドリル！

徳佐小学校では、11台のiPadを使って、普通教室での授業の中でドリル学習を行っています。

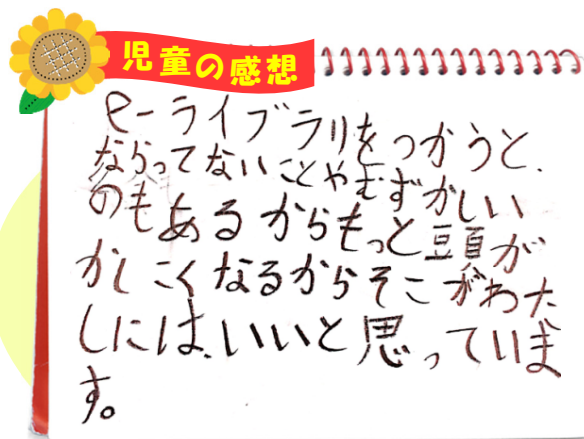
● 15分間のドリルで、定着！

この日は4年生理科の「物のあたたまり方」のまとめに、15分間ドリルを行いました。児童はiPadでeライブラリにさっとログインし、集中して問題を解き進めていました。

「10分や15分など、短時間で集中的にドリルに取り組むのが効果的です」と奥屋教頭先生。話し合いや発表を通して単元内容への理解を深めた直後にドリル学習に取り組むことで、学習内容を定着させるねらいがあります。



▲iPadの起動の速さを活かして、まとめやすきま時間に素早く定着を図ります



▲2年生の感想からは、挑戦する喜びが伝わってきます

● 学力調査に向けて、応用力をつける！

テストや学力調査を意識して、難しい問題に取り組ませることもあります。「挑戦」レベルの問題は、教科書の問題に比べて難易度が高いため、学力調査対策として応用力をつけるのに適しているのだそうです。

何度もリトライしたり、ペアで相談したりと児童は果敢に難問に取り組めます。「難しいのがおもしろい！」と児童も手ごたえを感じているようです。

教頭 奥屋 隆伸 先生のお話



単元学習（ドリル）を行った後は単元テストで確認するなど、本校では学力向上にしっかりと狙いを定めてeライブラリを活用しています。特にテスト前にドリルを行うと、クラス全体の点数が上がると感じています。

eライブラリのドリルは、問題をきちんと読まなければ解けない問題が多いため、応用力をつけるのによいと感じています。教科書だけでは多くの問題にあたる機会が少ない、理科・社会で特に重宝しています。

単元のまとめだけでなく、前時のふりかえりにもドリル学習を取り入れています。

● 正解音の多さで、理解度を把握

授業の最初の5分間にドリルに取り組み、前時の内容を振り返ってから授業を始めることもあります。

こうした場面では、ドリルの正誤判定の効果音を出して取り組むよう指示するのがポイントだそうです。先生方は、巡回時に聞こえる正解音の多さや速さから、前時の内容の理解度をおおまかに把握し、次の指導に繋げています。



児童の感想

e-ライブラリーをつかうと、
前より豆頁がよくなりました。
わたしが一番いいな
と思ったことは、みんなが
楽しめるべん強なの
でいいと思いました。



▲正解音は児童の意欲と集中力を高め、周囲とのよい競争心が生まれるという効果もあるそうです

iPadとeライブラリを日常的に使っているという徳佐小学校。奥屋教頭先生と情報担当の岡田先生に、運用のポイントについてお話を伺いました。



情報担当 岡田 淳 先生のお話

iPad×eライブラリで目指す、日常的なICT活用

まとめやふりかえり、すきま時間など様々な場面でドリルを活用しています。eライブラリには全学年の主要単元が揃っているため、1年間のいつでも使うことができ、指導に取り入れやすいと感じています。操作が簡単な

ため、児童も楽しみながら意欲的に取り組んでいます。

また、必要なときに取り出してすぐに使えるiPadとeライブラリを組み合わせることで、iPadを日常の教具として自然に活用することができます。iPadが1人1台分はないクラスでも、ペアや班で相談しながらドリルに取り組む良さがあります。今後は学習履歴から児童の理解度を分析し、よりきめ細やかな指導も模索したいと考えています。



児童の感想

e-ライブラリーをつかうと、
いろんなことがわかるし
やり方もかんたんだから
何回でもできそうです。
2年のべん強がもう1回で
きるから楽しいです。

